OBトップセミナー　キャリア形成ガイダンス

名古屋工業会連携強化委員会

名古屋工業大学が主催し、名古屋工業会が共催する来年度就職を目指す学生を対象とした平成22年度キャリア形成ガイダンスにおいて、企業の中堅として活躍しておられる本会会員より〝企業が求める人材、企業における活動〟など、キャリア形成に資する講演を7月7日に実施した。

今回は、日立電線㈱の山田秀夫さんとトヨタ自動車㈱の後藤武志さんにご登壇いただいた。以下はその概要である。

〔講演ー1〕

「しっかりとした人生観　しなやかな処世術」

日立電線㈱中部支店　テクノマーケ部長
山田　秀夫

【講師略歴】

・昭和51年　名工大電気工学科卒業
・昭和53年　名工大大学院電気・電子工学専攻修了
・昭和53年　日立電線㈱入社

日高工場、中央研究所、高砂工場、本社技術開発本部を経て平成19年4月に中部支店の部長に就任

【講演概要】

学生生活を終えて社会に飛び立つ若い人達に、これから大変役に立つ考え方について紹介したいと思います。

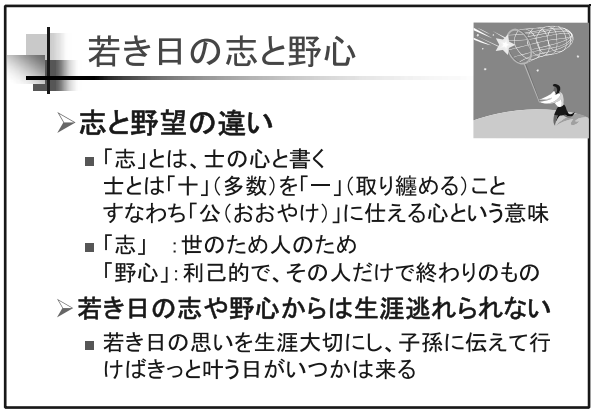
社会に入っていく前の心構えとして「志と私淑」から始め、そして「未来と人生」を見つめ、「千里の眼と迷い」について考えます。次に、人生の荒波を乗り切るための方法論として「冒険とパートナー」と「一日の生活と仕事」について述べます。

最後に、忘れてはならない「大切なもの」と「有り難い」お話をします。

1．志（こころざし）と私淑（ししゅく）

志は公（おおやけ）に仕える心です。一方、野心は利己的で個人だけで終わりとなってしまう心を言います。若き日の思いを生涯大切にし、子孫に伝えていけば、きっと叶う日がいつかは来るものと思います。

私淑とは、ひそかにある人を尊敬し、手本として学ぶことです。様々な人々との出会いの中で、私淑する人を探し出して、人生の師と仰ぎ、お付き合いするとよいでしょう。



2．未来と人生

世の中の価値には時間とともに「進化するもの」と「変化するもの」があります。

少し表現は異なりますが、俳人の松尾芭蕉は「不易流行（ふえきりゅうこう）」ということを言っています。それは、不変の真理を知らなければ基礎が確立せず、変化を知らなければ進展

がないということです。

また、未来という時間には、「ありうる未来」、「あるべき未来」、「ありたい未来」があることを理解する必要があります。

次に、人の一生について見てみますと、意欲・熱意と言った生命力というものは、年齢とともに「Ｓ字カーブ」（ライフサイクル）を描くように考えられます。特に、生まれる前の入り口と、死の間際である出口については良く考えみる必要があります。

さて、社会に出て仕事をしようとする場合に、どのように考えてスタートすればよいのでしょうか。何事も最初のスタートが肝心です。私は「筏（いかだ）型」から始めて、「山登り型」に途中で切り換えていくのが良いのではないかと思います。　先ずは、行き先は良くわからないけれども懸命に物事に取り組んでみて問題をクリアする筏（いかだ）型を勧めます。苦労を重ねて鍛えられていくうちに、自らの進むべき方向が見えてきますので、その時期を見計らって自分がやりたいと思う道に全エネルギーを集中して山の頂上を目指すのが良いと思います。

その場合でも、丁字型の生き方、すなわち自分の専門分野を深く極めながら、それ以外の分野についても趣味などを通して広くすることが、「人間力」を高める上で大切です。

もう一つ大事なことがあります。「種の起源」、「進化論」で有名なダーウインは、力の強い者や賢い者ではなく、環境変化にすばやく適応する者が最終的に生き残ることを発見しました。環境にうまく適応するにはどうしたらよいでしょうか。それには多様性を認めるといことです。広い心を持って色々な人々、花鳥風月といった自然の営みを謙虚な気持ちで受け入れることが基本になります。

３. 千里の眼と迷い

中国の詩に「千里の眼」というのがあります。「千里の眼を窮めんと欲して、更に登る一層の楼」という下りがポイントです。階段を一段でも高く登れば、そこには今までと違った何かがあるに違いないと思えるのです。更に上を目指すためには、修練を積み重ねる必要があります。これは、スポーツ界、会社の職制、資格取得などの世界にも当てはまります。人間らしい尊い考え方だと思うのです。

このような千里の眼は、視点、視野、視座へと展開されていくことを理解して下さい。

さて、千里の眼を窮めようとする過程において、「迷い」がどうしても生じるのは致し難いところです。そんな時にはどうしたらよいのでしょうか。一つは、元中日ドラゴンズ監督、星野仙一氏の言葉　「迷ったときは前に出ろ」。もう一つは、天才バカボンのパパが「これでいいのだ」と割り切ることです。何と爽快な言葉でしょう。

４．冒険とパートナー

最近ではあまり冒険物語が流行らないようで

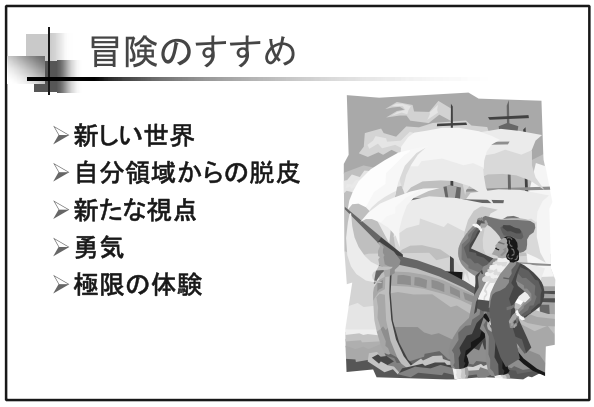
すが、今まで過ごしてきた学校生活から社会という全く異なる世界に飛び込むことは、アドベンチャー（冒険）に他なりません。

そのような冒険を疑似体験するのは「ロビンソンクルーソー漂流記」（新潮文庫）を読んでみると良いでしょう。何もない無人島に漂着したロビンソンは、全てを独力で始めなければならなかったのですが、フライデーという相棒（パートナー）を見つけてからは数々の苦難を乗り越え、やがて無人島に村が作られるまでに発展するのです。

人生の最大のパートナーといえば、伴侶（配偶者）です。できるだけ若いうちに良きパートナーを見つけることは永い人生を送る上で、とても大切なことなのです。

それは、男性と女性はお互いに補完し合う関係になっているからです。独身者は半人前と昔からよく言われたものです。男性は空間全体をまばらな点で捉え、獲物感知と危険察知を素早く行うことができます。一方、女性は物の表面をつぶさに観察する能力に優れています。赤ん坊を育て上げるのに、少しの変化でも命に係わるため見逃すことができません。ですから、夫婦となって、あらゆる困難を克服し子孫を残していけるよう神様はうまく考えたのです。

最近は40歳になっても結婚しない人が増えていますので、若い人達にはできるだけ早く結婚するよう勧めています。



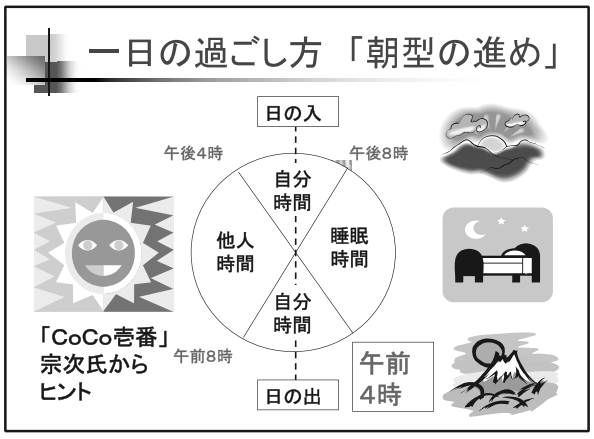
5. 一日の生活と仕事

限られた人生ですので、一日をどのように過ごすかは日常生活の基本として良く考えておく必要があります。時間は人工時計と体内時計から成り立っており、時間に沿って一日の時間割を決めています。特に、体内時計は日の出と日の入りに従って、太古の昔から動植物のリズムを形成しているものです。

この体内時計を優先的に考えて一日を過ごすことができれば、身体や脳を効率よく活動させることができる筈です。そこで午前４時起きの「朝型生活」をお勧めしたいと思います。この生活では日の出とともに活動を始め、日の入りに従って休養に入っていくという体内時計を基本とするものです。

次に一日の活動は挨拶から始まり、仕事に入って行くわけですが、仕事にはどのように向き合ったらよいでしょうか。仕事は必ず目的があります。目的のない仕事などはありません。

「何のために」、この仕事をするのか目的を明確に意識しなければなりません。そのことが「やりがい」ひいては「生きがい」にも通ずるのです。そして、仕事には「使命感」と「プロ意識」を持つ必要があります。また、仕事には「信念」を持つことも大切です。真面目に努力しても必ずしも報いられるものではありませんが、愚直に努力を続けることが尊いことであり、リスクを受け入れ、変化に柔軟に対応し、相手に寛容



になることが大切です。

さて、「やる気」の本質とは、自分を認めて貰いたいという意識です。社会において自分の名前と顔を覚えて貰えることこそ、技術屋としては最高の名誉ではないでしょうか。

社会には自分のすわるべき座布団（秩序）がないと、居場所がなくて不安になってしまいます。また、相手の気持ちを先取りすることが、「おもてなし」の基本精神になります。

６．大切なもの

一般的に大切なものとして、お金とか命と言われます。

お金は社会経済になくてはならないもので、物事のバロメータ（指標、基準）の一つになっていますが、「世の中に役に立ったのか、立たなかったのか」という過去形として最終的に姿を現すものです。

命は遠い先祖から脈々と受け継がれてきたもので、自分のものであって自分のものでないということを良く認識する必要があります。すなわち、ご先祖があって今の自分があるということです。命は肉体と精神、性格から構成されているといえますが、全てはご先祖からのＤＮＡに仕組まれている遺伝情報に支配されています。

お金と命は環境によって影響を受けます。それを言い換えれば「運」に支配されているということもできます。異論はあるかもしれませんが、人生の「運」の全体量は誰も同じ様なものではないかと私は思っています。ですから、ギャンブルのような小さなことに「運」を不用意に使うことは極力避けた方が良いと思います。

さて、自分が持っているもので一番大事なものは何でしょうか。それは「名前」です。名前が無かったら人間社会で生きていくことはできません。自分の名前を、けがすことなく、無くすことなく、末永く大切にすることが、人生にとって実はとても大事なことなのです。

７．最後に、「有り難い」お話

インドのガンジス川に穴の開いた流木が浮いていました。

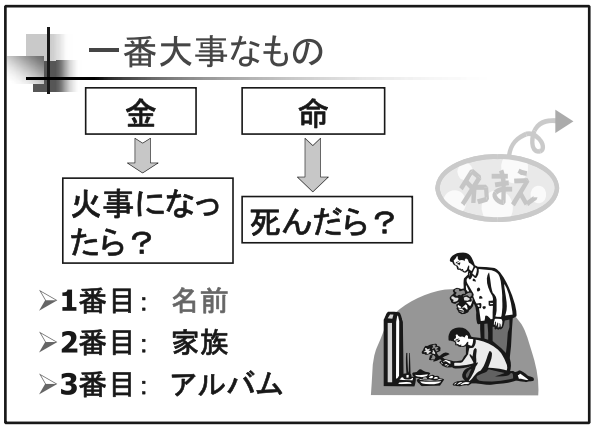
そこへ、川底から盲目の亀が100年に一度浮かび上がるそうですが、その亀が流木の穴へ偶然に首を入れることは「非常に有り難い」ことです。

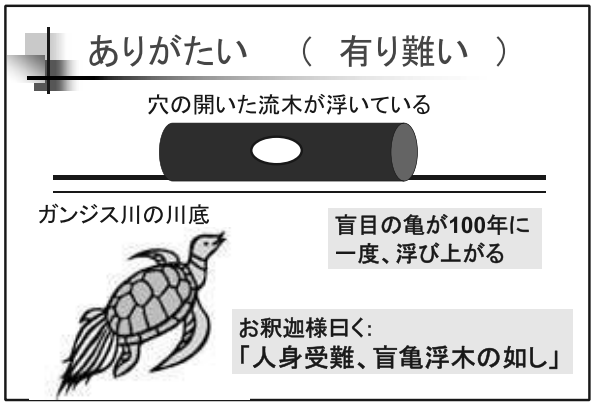
それを、お釈迦様は次のように言われたそうです。「人身受難、盲亀浮木の如し」

すなわち、私達人間は、誠に貴重な存在で、尊いものであると言われました。

ですから、自分自身を大切にして、社会の為、人の為に役に立つよう日々励むようにしなければならないと常々思うのです。

ご静聴、有り難うございました。





〔講演－2〕

「仕事の裏を読む～自分探しと四次元行動戦略～」

トヨタ自動車㈱　シャシー開発部
主幹　後藤 武志

【講師略歴】

・昭和53年　名工大情報工学科卒業
・昭和55年　東北大大学院情報工学専攻博士前期課程修了
・昭和55年　トヨタ自動車㈱入社
　CAD/CAEシステム、制御サスペンションシステム開発
・平成７年　東富士研究所
・平成11年　本社技術企画部　技術部門戦略
　愛・地球博i-unitコンセプト企画
・平成15年　第二車両技術部ステアリング開発室主幹に就任

【講演概要】

１．はじめに

2007年度から二部の「職業指導」実務型教員を務めて、今年で4年目となる今回、一部の３年生や修士１年生を対象にした「キャリア形成ガイダンス」において、話をする機会を得たので、その概要について述べる。

２．講演で伝えたいこと

今回の講演内容は、講演時間も短いこともあり、二部での講義内容から、学生の関心が高かった項目（図１）に絞り込んで話をすることにした。

・授業参加者45名（回答者45名　回収率100%）
・回答のまとめ方：講義自由意見、感想にかかれているコメントを抽出

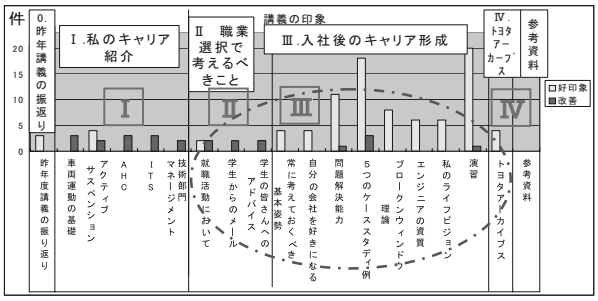


図１．アンケート分析例（2008年度講義例）

講演を通して学んで欲しいのは、自分自身の将来像を自分の頭で考え、そのライフビジョンの実現に向けて不足している領域の知識や技術を戦略的に習得していくこと（将来の目標から今の行動計画を考えるヒューチャープル思考）の重要性に気づいてもらうことである。以下に話しのポイントを示す（図２）。

（１）何故、ここで学んでいるのか？何を目指しているのか？夢は？…を、もう一度、原点に立ち返って考える「自分探し」

（２）行動計画は、①アイポイント【高さ】：立場によって目線の高さや見方も変わるので相手の期待値を常に考える、②ビューポイント【面積】：専門分野だけでなく、自然科学、社会・文化・芸術に対して興味をもち、視野の幅を広げる、③ターゲットポイント【時間】：60年後、30年後、20年後、10年後…自分の目標（足跡）をどこに設定するか？全体を俯瞰したライフビジョンを明確にする、などの「四次元行動戦略」(注１)

（注１）高さと面積の３次元空間に、時間を加えて表現しているため、筆者はそれを「四次元行動戦略」と呼んでいる。

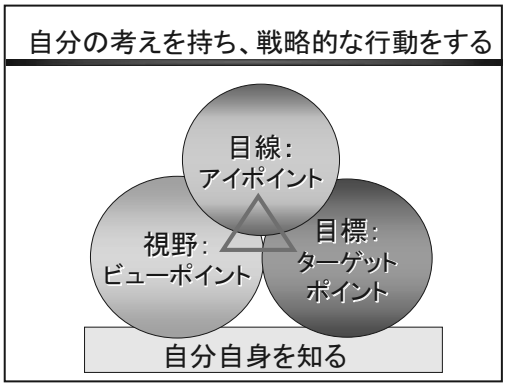


図２．伝えたいポイント

３．講演内容

Ⅰ.職業選択

最初にすべきことは、自分自身のたな卸しであり、以下の視点で考える。

１）目標：自分がやりたかった事（＝今の研究とは限らない）や夢は何？を考え、言葉にする。

【事例】志望動機：トヨタは環境技術に優れており志望した‥正しいか？

→主語はトヨタではなく自分。私には○○の夢があり、それを実現するために環境技術

の優れたトヨタを志望。

2）手段：夢の実現に向けて今何をすべきか？

【事例】最もチャレンジした事：バイト・勉強を一生懸命した‥正しい？

→目的が抜けている。目的を語って初めて手段が繋がる。目的を常に考える。

3）選択：この会社で働きたい、この人達と一緒に働きたいと感じるか？共鳴できるか？

→「得」ではなく「徳」のある企業。カタログでは分からない。OBの言葉や態度で判断。

Ⅱ. 仕事でのキャリア形成

常に考えておくことは、以下の３点である。

1）自分の会社を好きになり、そのDNAを感じる。

・企業、業界について一生懸命勉強する。全てを学ぶつもりで働く。

2）ビジネス体力をつける。

・論理的で体系的に処理する分析的アプローチ（「こなす」能力）だけでなく、直観やひらめきによる非分析的アプローチで、本質を見抜いて適切な処理ができる「さばく」能力が大切。

・実行に際して大切な心構えを図３に示す。

― ビジネス体力で大切なこと ―

1）管理技術(手法)だけでは集団はついてこない
　実務リーダーは自らどれだけ*汗をかけるか*
2）何をしたいか具体的に*分かりやすく*かつ
　繰り返し*言い続ける*
3）人を動かためには、まず*宣言*して*自分を動かす*
　・「これをやるぞ」と自分自身に宣言できるか？
　　→宣言して成功した時の様子や姿を*想像*する
　・自分の言葉に自分が素直に従うことが出来るか？
4）*自分の頭*で*目的*と*真因*を自問自答し、常に自分の行動に*付加価値*をつける習慣を身につける

図３．実行に向けた大切な心構え

3）自分をマネージメントする。

・自分のライフビジョンを描き、キャリアを築くために、今、どんなスキルを磨くべきかを常に考えて行動する。

・そのためには、自分自身のライフビジョンを文字や図表にして描くことが大切である。二部の講義では、演習問題として、全員に描いてもらっているが、多くの学生が、ビジョンを描ききれていない。その事実を知るだけでも意義はあると思う。図４に筆者のライフビジョン例を示す。

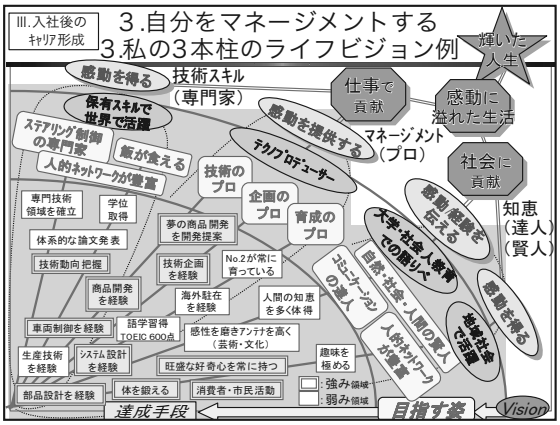


図４．ライフビジョン例（筆者）

Ⅲ．トヨタアーカイブス

・筆者のこれまでの上司や、役員の言葉から、仕事の進め方の本質を紹介した。

４．おわりに

今回の講演の狙いは、学生自身のライフビジョンを自分の頭で考える「自分探し」と、そのビジョン実現に向けた課題の本質を探る「四次元行動戦略」の重要性を知ってもらうことである。この「キャリア形成ガイダンス」講座を通して、学生の自分探しを支援（訓練）していくことが、明確な目的意識を持った将来の研究者、エンジニア、教員などの育成に繋がっていくことを期待したい。

しかし、これらの育成プログラムや支援制度は、あくまでも手段であることを忘れてはいけない。それは、学生自身が自分の問題として捉えて、自発的に行動して初めて有効になる。教えて人材を育てていく人材育成だけでなく、学生自身が目的意識を持ち自発的行動ができるように誘引する成長支援プログラムが、これからはより一層大切になってくると思う。

最後に、学生は敏感であり、私自身が情熱を持って仕事に取り組み、自身の体験を通した言葉で、熱く語らないと共鳴してくれない。学生は鏡であり、彼らを通して、自分に語りかけ、自分を鼓舞していることに気づかされた。その貴重な体験の機会を与えてくれた、名古屋工業大学と名古屋工業会にあらためて感謝したい。